



今月の

大槌とびと

佐々木

慎也

さん(20)

聖火ランナー・大槌高校卒業生

大槌町のオリンピックピック聖火ランナーを務めた佐々木さん。高校時代に復興研究会での定点観測の活動を通して抱いた夢に向かい、地元を離れて映像制作を学んでいます。

応援に来てくれた後輩たち
やっぱり地元っていいなと実感

聖火ランナーの大役、お疲れ様でした。応募したきっかけを聞かせてください。

佐々木さん(以下佐) — 2019年、高校3年生の夏に、一般の人も応募できることを知り、



当時取り組んでいた復興研究会のことなどを知らず、きっかけになると思い、応募しました。岩手県ではなく、大槌町として、多くの人に知ってもらいたいという気持ちでした。

走っている間、どんなことを考えていましたか？

佐 — 初めは、町がたくさん映って全国の人が見てくれたらいいなとか、後輩に、こんな先輩もいるんだなと思ってほしいなどと考えていました。でも大槌高校生や先生方、町の人たちに囲まれて走っているうちに、やっぱり地元っていいなという思いがこみ上げてきて、気が付くとただ楽しんで走っていました。

やりたいことをやらせてくれた
大槌高校に感謝

地元を離れ、東京の専門学校で勉強中と伺いました。

佐 — 映像制作について学んでいます。中学生

の頃からテレビが好きで、高校生の時、復興研究会の活動をきっかけに動画を作り、映像で人の心を動かす仕事に興味を持ちました。学校ではドキュメンタリー映像を多く制作してきましたが、現在はグループでの卒業課題として、初めてバラエティ番組の制作に総合演出という立場で取り組んでいます。

これからの夢、ふるさとへの思いなどを聞かせてください。

佐 — 自分のやりたいことがやりやすい、大槌高校の環境が無かつたら、今の場所にはいなかったかもしれません。そんな環境で過ごせたことに感謝しています。どこで働くかは分かりませんが、映像を作る仕事について、地元の吉里吉里や、海をテーマに動画や番組を作ってみたいと思っています。



記念のトーチは展示してもらうため母校へ